

## 聖金曜日 4月15日 分かち合い

ヨハネ 18, 1-9・42

昨日の夜からは「過ぎ越しの聖なる三日間」に入るとともに、教会の典礼は一年間の頂点を迎えました。今晚は主の受難の出来事を記念しています。主の受難は今生きている私たちにどんな意味を与えてくださるでしょうか。

新型コロナウイルスによるパンデミックが始まってから、三回目の聖週間になりました。世界の感染者は5億90万人を超えて、その死者は618万5千人ぐらいになったそうです。またさらに、一か月以上前に、ロシアがウクライナに侵攻したことによって、沢山のいのちを失ったり、大勢のウクライナ人が避難したりしています。それと共に多くの人々は様々な苦難に直面しています。私達も試練のために疲労しています。

「このような歴史的、社会的状況の中で、神は一体何をしているのでしょうか。神は十字架を担っています。神の子主イエスは十字架を担い、このような状況がもたらす悪を、物的悪、心理的悪、そして特に霊的な悪を、ご自身に引き受けています。なぜなら、悪はこの危機を、人々に信頼を失わせ、絶望に導き、悪の種子を蒔くために利用するからです。」(教皇フランシスコ)。

なぜ主イエス・キリストはこのような十字架を選ばれたのかと言いますと、それは、私達のため、私達人間の現実、存在、悪のすべてに触れるため、私達の苦しみと死に寄り添うため、私達を再び立ち上がらせ救うためです。なので、主イエスが十字架につけられて死にましたという出来事を記念することに当たって、改めて苦しみの意味を味わわせる機会が与えられると思います。私達は毎日何かの苦しみを体験しています。それを受け止めることをキリスト者は大切なことだと考えております。

日ごとの十字架の道において、私達は、困難な状況に置かれた多くの兄弟姉妹たちに出会います。避けて通ることなく、同情の心をもって彼らに近づく必要があります。彼らに近づきましょう。キリストの十字架を担がされたキレネのシモンのように、「なぜこのわたしが」という思いが起こるかもしれません。しかし、後で、それが知らずにいただいた大きなお恵みだったと気づくことに違いありません。

本当にキリスト者であろうとする時、出会わなければならない苦しみや、人生が与える苦しみを軽んじるのではなく、愛をもってそれを受け入れるなら、あなたもまた、復活の恵みにあずかるものとなります。その時、すでにこの地上においても、十字架は今まで味わったことのない喜びへの道であることを経験するでしょう。

「わたしのあとに従いたい者は、おのれを捨てて、日々、自分の十字架をになって、わたしに従いなさい」。私達自身、私達が従ったキリストのように、今日、無数の傷をつけられた人類をいやす光と愛になると思います。

主イエスの十字架を見ますと、人間の裏切り、人間の弱さ、人間の暴力、人間の罪を見ることができます。同時に主イエスの十字架を見ますと、いつくしみ深い神の顔を見ることもできると思います。しかし、主の十字架の神秘、また私達自分自身の苦しみの神秘を理解することがなか

なかできません。それが理解できなくても、まずそれを受け入れて、主イエスを信じ、主イエスの道を歩み、主イエスとともにその苦しみを捧げようとするならば、いつか主イエスとともに復活させられるようになるという希望を持つ必要があるでしょう。

私たちの人生の中でも、いくら苦しみがあっても、主イエスの十字架が輝いていて、私たちを照らしてください。主イエスは道であり、真理であり、そして命である。主イエスは十字架を通して私たちの唯一の救い主となるということを信じながら、共同祈願を捧げて、十字架の礼拝式に進みましょう。

最後に聖母マリアの姿を見ても、ご自分に与えられた苦しみ、闇や迷いのすべてを受け入れ、心の中に信仰の火をしっかりと灯し続け、受難の道を歩み通しました。